

”輝け～柔整業界期待の星！”

『女性審判員を志す人が増えることを願っています！！』



宗家花火 鍵屋 十五代目
富道館柔道天野道場副館長
柔道国際審判員 天野 安喜子 氏

北京オリンピック開会までに60日を切った。オリンピックで最も日本人が期待するのは、やはり柔道である。そのオリンピックに日本人女性初の柔道審判員として赴くことになった天野安喜子さん。

天野さんは今年3月、了徳寺学園を卒業、柔道整復師の国家試験も見事パスした。しかも、天野さんは創業350年の歴史をもつ宗家花火『鍵屋』の十五代目でもある。そんな天野さんとはどんな女性であるのか？ 素朴な質問と喜びの声をお聞きした。

☆まず初めに、天野さんは歴史ある宗家花火『鍵屋』の十五代目とお聞きしましたが…

私の祖父である鍵屋十三代目が柔道を好きで柔道場を開きたかったのですが環境的に開くことが出来ず、私が小学校2年生の時に十四代目である父がその夢を継いで柔道場を作りました。天

野家では花火も柔道もどちらも生活の一部でしたし、そういった生活環境の中で育ちました。柔道を中心にするとう花火が疎かになるのではないかといった不安や問題は一切なく、上手い具合にバランスがとれていました。私が選手時代も、また社会人になって審判の道に進んだ時にも家族の支え、協力と応援があったからこそ此处まで来れました。私は三姉妹の真中ですが、姉が柔道二段、妹も柔道初段で、天野家の家族全員が柔道と花火に携わっており、天野家ではごく自然なことでした。学生時代は選手として柔道中心の生活をしていましたので、精神的な勉強を柔道を通して培ってこれたことが、今日にも役立っているという気がしています。

☆天野さんは今年の国家試験で柔道整復師の免許を取得されたそうですが、了徳寺の学校に行かれた切っ掛けは？

柔道場を持っておりまして、将来的には柔道場も父の後を継ぐことになりました。また、姉が整骨院を開業しております。間近で患者さんを治している姿を何度も目にしているので、“格好いいな”って本当に素直に思いましたし、“人が喜ぶことや人の役に立てることができるといいな”と思っていました。その為には柔道整復師の免許を持っていたほうがよいということで取得しました。

☆最近の国家試験は凄く難しいと聞いています。感想など教えてください。

了徳寺学園の試験に較べると国家試験はそんなに難しくなかったというのが正直な感想です。私としては国家試験に受かるよりも了徳寺を卒業できたことのほうがもっと嬉しかったです。なにしろ本当に厳しかったですからね(笑)。

やっぱり医療の勉強は、簡単ではないですね。試験はクリアすることが出来ましたけれども、これからのほうがよほど大変だと思っています。まだス

ターゲットに立ったわけではなく、患者さんの障害や疾患を1つでも治して初めてスタートラインに立ったといえると思っています。失礼かもしれませんが、私は柔整師というのは「技術者」と思っているんです。技術なんぼの世界ですから、じっくり勉強を続けて15年後か20年後くらいには柔整師として皆さんから例え1人でも2人でも頼られる人材になりたいと思っています。

☆妹さんも了徳寺学園医療専門学校に入学されたそうですね。

はい。私自身、国家試験に受かって達成感をもつことが出来ましたし、了徳寺に入って良かったなと思っています。先ほど申し上げましたように長女が整骨院を開業しております。やはり妹にも両方のお姉ちゃんを手伝えるようにということで、お願いしました。

☆柔道整復師という名称や職業を知らない方も割りと多いようです。

私も学校に入って柔道整復師という正式名を知りました。ですが、柔道セラピストとして世界に認められるような存在になってきましたので、逆に今度は世界から「日本の柔道整復師って凄いよね」とって日本人が海外の評価を知って改めて「そういう素晴らしい技術が日本にはあるんだ」となって評価されるようになってくるのではないのかなと思います。一度海外のほうに出て、海外で認められてまた日本に見直されるということがありますので、そういう意味でも世界に認められた柔道セラピーというのは画期的なことだと思います。

☆日本の柔道はどうなっていくだろうと日本の柔道ファンは気をもんでおりますが…

日本の柔道というのは勝敗だけではなく、精神も磨いていきたいと思いますというのが日本の文化と共に存在し発展してきました。ただし、オリンピックでは5大陸の中での勝ち負け、勝負になってきます。その中で例えばアジア大陸の中の日本が柔道をどういう風な視点で見ているのか？、或いはヨーロッパ大陸のある国は柔道というスポーツを競技としてどういう視点をもってやっていらっしゃるのか？やはり其処には文化の違いがあります。私も審判をいろいろさせていただいておりますけれども、根

本的な柔道の「技」であるとか、「一本をとる」という強い信念を持ち続けてい



れば勝っていますから、日本の柔道がおかしくなっていくということはないと思います。ただ競技としての柔道については、五大大陸の視点が夫々違うので日本人から見るとなんであんな柔道を推奨するのかというクエッションマークになるのかもしれませんが、柔道はオリンピックの競技種目になってから結構長い年月が経っています。必ずどの国も勝つための柔道というのを一所懸命考えてきます。その中で日本の柔道というのを何処まで生かせるのかというのは厳しい状況ではありますが、強い人はそれでも勝ちます。

あと1つは、オリンピック審判員、或いは世界選手権の審判員というのは試験の積み重ねで篩にかけられて残った人達だけで、私もその中の1人です。日本国内で先ずA級をとって2年に1回、コンチネンタル審判員というアジアで10人しか受けられない試験に合格し、次はワールド、世界の審判員の試験に合格して初めて国際Aというライセンスを取得することが出来ます。国際Aになっても試験があつてジュニア世界選手権の審判員として行ってもいいよという許可が下ります。勿論、自分から行きたいといってもダメなんです。許可が下りて、そこで篩にかけられて世界選手権にエントリーされる。そこでまた篩にかけられてオリンピックの審判員として残ることが可能になります。世界選手権以上というのはとにかく厳しい。しかも世界で統一された審判規定で訓練されるため、基本的には世界の審判員と同じ視点です。もし皆さんが日本の審判と違うんじゃないのって仰るのであれば、女子柔道も誰一人メダルを獲ることはできないハズであるのに、しっかりゴールドメダルを獲っていますので…。

4月20日、横浜文化体育館で行われた第23回皇后盃の決勝戦で主審を務める天野さん

☆日本で初めて女子の審判員としてオリンピック

に出場されることになった経緯等を聞かせてください。

私が審判員になった切っ掛けというのは、父が東京都柔道連盟の役職にあった関係で、“天野さんの娘さんを審判員にどうだ？”という話をいただいて、審判員の道に進むことになりました。選手の時には全国で3位以内に入っておりましたが、当時は国際大会という海外の大会は少なかったんです。審判をやるようになって年に1・2回海外に派遣していただいて、それがとても嬉しかったです。フランス国際、ドイツ国際というメインとなる大会の審判が出来て、経験を積んで、身につけなければならないことが沢山ありますし、一つ一つ勉強していこうというのが精一杯でした。決してとんとん拍子に来たというわけではありません。

世界選手権の中でも試験があって、2回の篩にかけられます。決勝まで残れる審判員は、そこで初めてオリンピックの審判員になれる可能性が出てきたというぐらい厳しい。私自身決勝戦まで残れて“ここまで来たのならオリンピックに行きたい”という希望がわいてきました。それまでは本当に無我夢中という感じでした。私はどちらかというと石畳をコツコツ叩いて、叩きすぎて壊して渡るほうで、壊しては又自分で積み上げていくのが好きです。そうしなければ、次に進む勇気がもてない性格なんです(笑)。

審判の道は、自分で切り開こうと思っている道ですから責任をもって前に進んでいかなければならないと考えています。

☆鍵屋さんが350年の歴史をもっていること、その日本の花火の芸術性を追及、研究されているそうですね。

花火の研究に関しては自分の中の疑問が解明されないので取り組んでいます。日本の花火というのは350年も経済の浮き沈みに関係なく、戦争や事故を除いてずっと今もなお続けられているというのは、何かがあるんだろうなと。それはいったい何故なんだろうということが不思議で、そのことを理論的に解明したいという思いがあります。もう一つの理由としては“花火は芸術作品だ”と謳われていても、学問的には未だ認められていない分野です。花火職人のためにも、花火の水準を上げるためにも芸術学の方面からアプローチしていっ

て、学問的にも芸術性を認められていたいという一念から今後も研究を続けていきたいと思っています。



了徳寺医療専門学校・副校長の横山健二先生とご一緒に！！

☆北京オリンピックに行かれる抱負を聞かせてください。

日本の柔道ですから、日本人の審判員としてあれが柔道のジャッジであると思われるような審判をしたいと思っています。日本国内の中で女子で初めてという光栄な立場を与えられましたので、出来ればこれまで柔道に親しんで来た方で、特に若い女性の方から“私も審判をやってみたい”という人が増えて、今後女性の審判員への進出を活性化出来たらいいなと。

私がオリンピックに出たことで、女性の審判員を志す人が増えることを願っておりますし、皆さんからの多くの視線をもっと浴びて女子柔道の審判の水準が上がっていけばいいなと望んでおります。

(文責・編集部)



●天野安喜子さんプロフィール

1970年、東京都江戸川区、鍵屋14代目の次女として誕生。1986年、柔道福岡国際女子選手権大会、銅メダル。1990年、火薬類取扱保安責任者免許取得。1993年、花火製造のため2年間の修行。1994年 火薬類製造保安責任者免許取得。2000年、宗家花火鍵屋女性初の15代目を襲名。2001年、国際柔道連盟インターナショナル審判員資格取得。2005年、両国鍼灸柔整専門学校、入学。2006年、日本大学芸術学研究科芸術専攻博士後期過程在籍中。2008年、両国柔整鍼灸専門学校卒業、北京オリンピック柔道競技の審判員(日本女性初)